

音楽リズム遊び II

幼児教育学科 末吉 加代子
青山 雅哉
小川 純子

I. はじめに

私たちは、それぞれ幼い頃から様々な形で音楽に関わってきている。子どもにとって音楽は生活の一部と言える程、重要なものである。

ここでは、子どもが楽しんで音楽に触れる事の出来る「音楽リズム遊び」に焦点をあて、引き続き「リズム遊びII」の実践を検討し、子どもの音楽的発達の過程に応じた音楽的指導方法について研究を進めていく。

II. 音楽環境の中のリズムについて

時間軸の中に、ある秩序が組織された物がリズムといえるが、日常聴かれる音楽には様々なリズムが多様に存在し、ある年齢に達すると新たな音楽に反応できない大人が増加しているようである。

音楽を聴くとき、人はその流れにある秩序を感じ取り、その上で音楽の理解をさらに深めていくことができるのだが、そういった大人は特に音楽リズムの知覚化ができず、そこに至る現象が報告されている。一方、子どもにとって、すべての音楽は新鮮なものであり、そのストレスがないこともわかっている。

つまり、子どもは多様な音楽にも自然に楽しみ親しむことで時間的・空間的秩序をつくり出す能力を備えていることになる。そして、子どもはそういった経験を生き生きと生活や遊びの中で表わしているのである。

リズムは知覚され認識されると同時に、そこにある種の刺激を感じる人は身体を動かしたり手や足で拍子をとったり踊り出したりもする。音楽は和声、旋律、リズムの三要素で成り立っているが、音楽本来の歴史を遡ればリズム表現に始まっており、そこには人間の行動、コミュニケーション、おどり等に深く結びついている。リズムは聴くものを活性化する力をもっており、音楽表現の伝達の主要素といえるものである。

「リズム遊び」で様々なリズムパターンを用いた指導方法を考えるとき、まず大人である保育者自身の音楽リズムの知覚とともに、その表現力や感性を養っておくことが必要であり、またそれを子ども達との遊びや表現活動の中に導入するときには、子どもの発達の過程に応じた適切な指導を展開すること

が求められている。

Ⅲ. リズム遊びの実践と考察

聞き慣れた曲のリズムを変化させることで、そこに楽しみや興味を膨らませていくことができる。その曲に簡易なリズムパターンを用いた「リズム遊び」を工夫考案し、実践をとおしてその反応や効果について検証していきたい。

今回は、「さよならのうた」をサンプルとして用い、簡易打楽器を使ってマーチ、ワルツ、ロック、ビギン、チャチャチャ、サンバのそれぞれのリズムパターンを試演し、次にそれを発展させ二部合唱や合奏曲へと簡単な編曲の実践を対象者に試みた。

対象者は子ども達を指導する立場の大人である。現場での指導方法を互いに積極的に学ぼうとする意識が高く、「リズム遊び」での教育的意味をある程度説明、理解した上での実践となっている。

「さよならのうた」

* 楽譜（うた及び伴奏基本和音） 楽譜資料 ①

「マーチ」

秩序正しく行進するための曲で、明快な2拍子または4拍子の曲となっている。

* 楽譜（総スコア） 楽譜資料 ②

「ワルツ」

19世紀ヨーロッパ各地で広く愛好された3拍子の舞曲であるが、ポピュラー音楽でも使用されるようになった。

* 楽譜（ピアノ伴奏とリズム譜） 楽譜資料 ③

「ロック」

ロック（Rock）は、アメリカで1950年代に生まれたポピュラー音楽のジャンルである。ボーカル、ギター、ベース、ドラムの基本構成をとるバンドスタイルで演奏される、激しいビートサウンドが特徴であるが8ビート、16ビート、ゴーゴーなどリズムは様々に変化している。歌の切れ目に入るフィラーはドラマーのテクニックを鼓舞しているようである。

* 楽譜（ピアノ伴奏とリズム譜） 楽譜資料 ④

「ビギン」

西インド諸島のニグロ系土民に踊られた民族舞曲。基本のリズムはマラカスの8ビートで軽快で爽やかである。リズムパターンを5小節目からも使用する。

*楽譜（総スコア及びリズムパターン） 楽譜資料 ⑤

「チャチャチャ」

チャチャ(cha-cha), もしくはチャチャチャ(cha-cha-cha)はラテンアメリカン・スタイルのダンスミュージック。ルンバ(rumba)とマンボ(mambo)に由来する。メロディーの切れ目にフィラーとしてチャチャチャの合いの手を入れることで音楽が一層楽しくなる。

*楽譜（ピアノ伴奏とリズム譜） 楽譜資料 ⑥

「サンバ」

4分の2拍子のダンス音楽で、ブラジルの音楽のなかで一番代表的なリズム。19世紀の終わりごろ、バイーアにあったアフリカ的な歌付きダンスが、リオの黒人街に移植され、カーニバルの音楽になった。原型は、即興歌手（兼作者）、コーラスとリズム楽器だけの演奏。代表的なリズムはキーボードパートのリズムでバスドラム、スネアドラム、ボンゴ、コンガ、カウベルはこのリズムから発展したものである。行進曲というと直ぐマーチと思われるが、サンバも陽気で明るい行進のための実用音楽である。リズムパターンを用いて様々な楽器で使用していく。

*楽譜（総スコア及びリズムパターン） 楽譜資料 ⑦

上記「さよならのうた」を用いてリズムパターンの試演後、続いて以下の方法で任意の童謡を用いて合奏曲への簡単な編曲を試みた。

- 10人前後でグループを作り、まずは好きなリズムを選ぶ。
- リズム楽器を選び、その楽器にあったリズムパターンを練習する。
- 全員で合わせ、拍の狂いやテンポの狂いがないか練習を繰り返す。
- 任意の童謡を選び、リズム楽器以外にピアノを、またメロディーも入れ編曲を考える。
- 最後に発表をする。

曲目例と実践結果

1. こぎつね（サンバ・マーチ・ロック・チャチャチャ）

単純なメロディーであるため、どんなリズムにも容易く編曲できた。

2. うみ（サンバ）

3拍子の曲であるため、メロディーを4拍子に編曲する作業が難解であった。

3. もりの熊さん（チャチャチャ）

アウトタクトの曲であるため、そのままのリズムではうまくはならず、前奏で休符を活用するという工夫が必要であった。

4. むすんでひらいて（サンバ）

小3部形式を3回繰り返すと歌詞が無い場合混乱するので、間奏にリズムパターンを挿入する事で調整をした。

IV. 音楽リズム遊びの問題点と課題

上記の音楽リズム遊びの実践において、次のような問題点が浮かんできた。

- 元の拍子と異なるリズムに変えたとき、本来の歌詞のイメージが変わってくる。
- マーチやロックなどは比較的良く揃うが、ビギンやサンバは揃えにくい。
- 不慣れなリズムによる不自然な音楽表現。

これらの問題は大人の場合

- 出だしのカウントをとったりするリーダーを決め、指示を出すようにする
- 自然にそのリズムを体で表現出来るように繰り返し練習し、体得していく。

などの解決方法がすぐ見つけ出されたが、幼児に指導する場合、下記のような注意が必要であることが導き出される。

○年齢に応じたリズムを選ぶ必要がある。

例えば、体にあった4拍子のマーチのリズムは3歳児でもしっかり楽しんで演奏できるが、それ以外のリズムになると難しい。逆に年齢が上がると、単純な繰り返しのみのリズムでは飽きてしまい楽しんでくれない。

○少し難しいリズムは、曲を慎重に選ぶ必要がある。

3拍子を4拍子にするには、マーチ、ロックならさほど難しくないが、ビギン、サンバのような複雑なリズムではメロディラインが崩れてしまう。また逆に、単純なメロディーの曲はどんなリズムにも編曲しやすいので、同じ曲を使って、いろいろな年齢の幼児が楽しむことが出来る。

また今回のリズムパターンは全て行進やダンスのリズムで、身体の動きと切り離すことができない。音楽表現は自ずと身体の動きを伴うものであるが、是非マーチやサンバの合奏を確実なものに仕上げ、実際に行進曲として使えるか、ワルツ、ロック、ビギン、チャチャチャの演奏でダンスが可能か「音楽リズム」と「動きのリズム」の共同実践の機会が有ってもよいと考える。

V. おわりに ～保幼小の連携を踏まえ音楽リズム指導の発展性を考える

保育所保育指針の見直しや学習指導要領によって、小学校側に保幼小の連携が義務付けられ、今後こどもの交流はもとより教師の交流も進むようになると考えられる。そのような動きの中、これからの幼児の音楽について考察した。

そもそも音楽は、人種や国の垣根を超え、幼児から大人、高齢者まで楽しみや感動を共有できるものであり、連携を超越した性格のものと考えられる。しかし、保幼小の連携の目標で重要なことは「音楽リズム指導の質の向上と、より豊かな音楽性を追求することである」を忘れてはならない。以前から音

感教育の早期指導の重要性が認められているが、一般の保育園や幼稚園においても幼児の音楽指導の方法を見直す良い機会ではないだろうか。今後、幼保現場でも音階の指導や、ピアノ、キーボード、ピアノ等の鍵盤楽器、木琴、鉄琴等のメロディー楽器が自由に取り入れることが可能になれば、音楽の表現手段が拡がりにより、好奇心旺盛な幼児の音楽に対する意欲も刺激され、幼児の音楽は多いに発展するものと期待される。幼児教育現場での音楽表現では子どもの成長、発達についての理解や環境との関わりが大切であるが、保育士、幼児が共に心から楽しむ音楽でなければならない。そのためにも、「教材をどのように生かしていくか」が大切であると考え。

ここでは、3歳児用の「さよならのうた」（小川正 作詞 作曲）を木琴、キーボードと簡易打楽器で色々なリズムパターンを使い表現の変化を楽しんだが、最後には二部合唱曲へと簡単な編曲を試みた。3歳児用の歌が小学校の中学年程度のレベルでも充分通用できる教材にまで発展させることができる。そして、これも一つの連携の方法と考える。

参考文献

- 「音楽の表現」の理論と実際 桶谷弘美他 音楽之友社
 幼児のうたとあそびの曲 奈良文化女子短期大学編
 ピアニカによる音楽指導の手引き たのしい歌と楽器あそび YAMAHA
 子どもと音楽 梅本堯夫 著 東京大学出版
 音は心の中で音楽になる 谷口高士 編著 北大路書房

楽譜資料①～⑦

資料① さよならのうた

さよならさんかくまたきてしかくごきげんごかくでまたあした

資料① 伴奏基本和音

Piano

資料② マーチ

The image displays a musical score for a march, organized into two systems. The first system includes four staves: Soprano (treble clef), Piano (grand staff), Snare Drum (percussion clef), and Bass Drum (percussion clef). The second system includes four staves: Soprano (treble clef), Piano (grand staff), Snare Drum (percussion clef), and Bass Drum (percussion clef). The music is in 4/4 time. The Soprano part begins with a rest, followed by a melodic line. The Piano part provides harmonic accompaniment with chords and moving lines. The Snare Drum part features a rhythmic pattern of eighth notes, and the Bass Drum part provides a steady pulse. The score concludes with a double bar line.

資料③ ワルツ

Musical score for 'ワルツ' (Waltz). The score is in 3/4 time and consists of six measures. The Piano part is written in treble and bass clefs, featuring a melody of chords in the right hand and a bass line in the left hand. The Cymbals part is written in a single staff with a treble clef, showing a rhythmic pattern of eighth notes. The Tenor Drum part is written in a single staff with a treble clef, showing a rhythmic pattern of eighth notes.

資料④ ロック

Musical score for 'ロック' (Rock). The score is in 4/4 time and consists of six measures. The Piano part is written in treble and bass clefs, featuring a melody of chords in the right hand and a bass line in the left hand. The Timbales part is written in a single staff with a treble clef, showing a rhythmic pattern of eighth notes. The Tenor Drum part is written in a single staff with a treble clef, showing a rhythmic pattern of eighth notes.

資料⑤ ビギン

Soprano

さよならさんかく

Marimba

Piano

Cymbals

Bass Drum

S

またきてしかくごきげんごかくでまたあした

Mrb.

Pno.

Cym.

B. Dr.

資料⑤ ビギン リズムパターン

Claves

Maracas

Snare Drum

Bass Drum

Cymbals

Bongo Conga

資料⑥ チャチャチャ

Musical score for 'Chachacha' in 4/4 time. The score consists of three staves: Piano, Guiro, and Cowbell. The Piano part is written in treble clef and features a melody of eighth notes and chords. The Guiro part is written in a single line with a 4/4 time signature and features a rhythmic pattern of eighth notes with accents. The Cowbell part is written in a single line with a 4/4 time signature and features a rhythmic pattern of eighth notes with accents.

資料⑦ サンバ リズムパターン

Musical score for 'Samba Rhythm Pattern' in 3/8 time. The score consists of five staves: Triangle, Guiro, Bongo Conga, Snare Drum, and Bass Drum. The Triangle part is written in a single line with a 3/8 time signature and features a rhythmic pattern of eighth notes with accents. The Guiro part is written in a single line with a 3/8 time signature and features a rhythmic pattern of eighth notes with accents. The Bongo Conga part is written in a single line with a 3/8 time signature and features a rhythmic pattern of eighth notes with accents. The Snare Drum part is written in a single line with a 3/8 time signature and features a rhythmic pattern of eighth notes with accents. The Bass Drum part is written in a single line with a 3/8 time signature and features a rhythmic pattern of eighth notes with accents.

資料⑦ サンバ

♩ = 112

Marimba

Keyboard

Piano

リズム
パタ

8

Mrb.

Acc.

Pno.

8

S. Dr.

さよなら さんかく またきて

しかく ごきげん ごかくで またあした

The musical score is arranged in a system with five staves. The top staff is for Marimba, followed by Keyboard, Piano (grand staff), and a percussion staff labeled 'リズムパタ'. The second system includes Mrb. (Marimba), Acc. (Accelerando), Pno. (Piano), and S. Dr. (Snare Drum). The tempo is marked as ♩ = 112. The key signature has two sharps (F# and C#), and the time signature is 2/2. The lyrics are in Japanese: 'さよなら さんかく またきて' and 'しかく ごきげん ごかくで またあした'.